



平成16年7月22日

陳 述 書

東京地方裁判所八王子支部民事第3部1A係 御中

住所 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号

沖電気工業株式会社内

氏名 片野 圭一 

1. 身上等

私は、昭和56年4月1日、沖電気工業株式会社（以下「当社」といいます。）に入社しました。現在の職制は課長職にあります。入社以来、総務部の施設管理課（入社当時の名称は設備課）に配属されています。日常の業務内容としましては、施設の管理、不動産の売買、建物の建設・改修、備品等の購買等です。

また、当社株主総会に際しては、平成14年度（第78回）及び同15年度（第79回）の何れも、総会当日会場となる建物玄関のドアの外側で株主の案内係を務めております。

何れの総会の日も、午前7時30分までには出社し、人員出欠の確認、班毎の準備事項の確認、看板等の所定の位置への設置等の準備をしながら、午前8時30分には先程話しました会場玄関のドアの外側で株主を案内するために待機していました。

ちなみに、同玄関口は、午前8時30分までは、社員の出勤のための通常の出入り口としても使用しましたが、同時刻以後は、社員の出入りを禁止することになっておりましたので、社員が出社すると他の入口に誘導することにして、私は同時刻、予め予定した場所に待機しておりました。

なお、私は、玄関口の担当でしたので、必要がある場合を除いて、総会開会中、



議場内等建物の中には入らないようにしていました。

2. 第78回定時総会について

- (1) 12時少し前頃だったと思いますが、私が見ていきますと、株主の退場経路の一番奥の方から、当社が株主総会会場及びそれに関連する施設内の警備を委託している株式会社ライジングサンセキュリティーサービス（以下、「ライジングサン」といいます。）の警備員の2名、その後ろに数名の警備員が田中哲朗株主（以下「田中株主」といいます。）を取り囲むようにして出てきて、私がいるドアの方に歩いて来るのが見えました。退場経路のところどころには、他の警備員も立っていましたが、田中株主の退場に手を貸すということはありませんでした。田中株主と警備員は特に争っているようなことではありませんが、ドアの外に出る前に一度立ち止まり、警備員を怒鳴りつけていました。でも、警備員らが田中株主を引っ張るとか押すとかの様子も全くなく、むしろ並んで歩いて来るような様子で約25メートル程を3人で私の方に向かって歩いて来、ドアの外に出てきました。この時田中株主と一緒に退場してきた株主がいて、この株主の方が、田中株主の退場を止めようと思つてのことか、警備員らが暴力など振るってもいけないのに、大きな声で警備員らを怒鳴り付け脅かすような言動を続けていました。

この様子からすると田中株主が退場処分を受けたかどうかその時の私には分からないようだった訳ですが、ライジングサンの警備員と総会閉会前に建物外に現れたことから、私は、田中株主が退場になったのだな、と推測しました。

図面で説明しますと、田中株主は、乙第1号証の図2の「石段」と書いてあるすぐ右上の矢印の所にあるドアの外に出てきたという訳です。それで、そのままその付近に一人で立っていました。

当初は、退場になった株主は、当社の施設管理権に基づいて、敷地外に退去していただく事になっておりましたので、その規則通り、退去を求めるはずだ

ったのですが、当日の屋外が雨であったこと、田中株主がその場所で特に騒ぐわけでもなかったことから、総会会場外の管理等の責任者と相談し、敷地外への退去までを求めることは控えておりました。

田中株主も、私たちに向かって文句を言うでもなく、暴れたり、騒いだり、どこかが痛い、等と言うこともありませんでした。そして、自分の荷物の置いてある側で、立ったり座ったりして、誰かを待っている様子でした。

- (2) そして、田中株主が退場してきたしばらく後、上田恵弘株主（以下「上田株主」といいます。）が、田中株主の時と同じように、株主の退場経路の一番奥の方から私のいた方に出てくるのが見えました。その様子ですが、上田株主はライジングサンの警備員の2人が右脇と左脇に腕を深く入れて、2人にかかえられるような格好で株主退場経路のドアから出てきました。そして、ドアの近くに来てドアから外に出る一歩手前の辺りで、外に出るのを拒み立ち止まってガンバル様子を示しました。しかし、警備員らから押し出されました。上田株主は押される行為を暴力だ、暴力だと大声を出していました。

ドアの外で警備員2人は上田株主の脇から手を抜きました。2人の警備員は、それぞれ上田株主の脇に腕をいれてかかえている状態ですから、その他に引っ張るとか、掴むとかは必要ありませんから、かかえ上げるようなことその他は何もやっていませんでした。2人の警備員が上田株主の脇から手を抜いた他、会社の社員も誰も上田株主に触れた者はいません。上田株主は両腕をかかえられている時もその後も絶えず大声で警備員に食ってかかっていました。

上田株主がドアの外に出るとすぐに別の株主が追いかけるようにドアの外に出てきました。それを見た田中株主も、上田株主の近くに歩み寄ってきました。そのとき、上田株主は警備員に退場させられたことに対する不満を述べていました。

私は、甲第1号証にも写っているとおり（甲第1号証の1番上の写真中央の後ろ姿と、同号証上から2番目の写真中央やや右側に腕章をしている眼鏡をか



けた男性は私です。)、この3人の株主から2乃至3メートル以内の所におりましたが、よくその時の様子や話を聞いていました。

上田株主は、他の株主と一緒に、ライジングサンの中沢さんに文句を言っていましたので、私は上田株主と警備員が向かい合っている側面から注意して観察しておりました。

上田株主は、ジャケットを着ており、だれもジャケットに手を触れたりはしていないのに急に、田中株主だったか他の株主だったかが、「破れてる。」と言い出しました。

すると、上田株主の方がビックリしたみたいだったのですが、間もなく、その指摘に便乗するみたいに破れていると言い出しました。そして、それからはジャケットが破られたことに話が変わり退場させられた時に破られたということに不満を切り替えました。

そして、この時から、田中株主がカメラで撮影を始めたと記憶しています。甲第1号証の写真は、何れも、この時のものだと思います。

そして、上田株主は他の株主と一緒に、私も含めて、周囲の人間に対して、ジャケットの左側を大きく開いて、「破れてる、破れてる。」ということを繰り返し言いました。

しかし、田中株主らを除く周囲の人達が、その様子を黙って見ていると、そのまま田中株主や上田株主、もう一人の株主らは、乙第1号証の図2の下にある「石段」という文字のすぐ右上にある矢印の所に集まって、3人で会話を交わしながら、株主総会が終了するのを待っていました。

そして、株主総会が終了し、田中株主のグループ仲間らしき株主たちが出てくると、一緒に敷地外に出ていきました。

以上